

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	竹ノ下祐二
所属機関名	理学部 動物学科
職位	教授
在籍年	2 年

主な担当授業科目、教育の責任

担当科目：動物園学、動物行動学、生態学、霊長類学、自然人類学、野外調査実習、卒業研究等

野生大型類人猿の社会生態を専門とすることから、大型哺乳類の行動や生態、フィールドワークの技法などの領域の教育を担っている。また、動物園研究員の経歴をもち、動物園関係者とのつながりもあることから、動物園学や動物園での研究活動のスーパービジョンを行なうことが期待されている。

教育の理念

学生が専門分野の学びを通じ、知識だけでなく、当該の学問領域の背後にあるものの考えかたに触れ、関心をもつことが社会人としての成長につながると考えている。また、根拠に基いて自らの考え表現できるようになるとともに、他者の考えも傾聴し、自他の考えを接続することに喜びを感じ、誰とでも議論ができるような人間になってほしいと考えている。また、専門領域の知識だけを得るのではなく、研究方法を身につけ、自立した研究ができるようになってほしい。

教育の方法・方針

1 年次配当の科目「動物園学」では、グループワーク主体の授業を行った。毎回グループの組み合わせを変えることで、親しい友人以外とも話しあう機会を設け、さらにグループワークの成果発表に外部の動物園人に加わってもらい、客観的な第三者からのフィードバックを提供した。そのほかの座学においては、知識の伝達や実際の研究例だけでなく、その分野の成立過程における理論的発展の解説に重点をおくようにしている。また、「動物行動学」では、課題を与えグループワークをさせたうえで、その結果を各自で小レポートとして書かせ、フィードバックで作文技法の指導を行った。また、「動物行動学」では動物行動の研究法を詳しく解説し、課題として仮想的な研究計画を考案、プレゼンさせた。

教育の成果

動物園学においては、固定メンバーではなく毎回異なるメンバーでディスカッションが成立し、着実な議論の深まりがみられるなど、誰とでも議論ができる下地を作ることができた。さらに、グループワークの成果を外部の動物園人にも堂々と発表し、高い評価を得た。
動物行動学のレポートでは、回を重ねるごとにパラグラフ・ライティングの様式に則って作文のできる者が増えた。
動物行動学を受講した者 3 名が、卒業研究において習得した研究方法を応用して動物の行動研究を行った。
生態学、霊長類学の授業では、毎回任意で提出させている感想・コメントにおいて、理論的観点からの質問が多くみられた。

今後の目標

さらに学生の自律的な学びを推進するための方法論を検討してゆきたい。とくに、教員から学生への教授や教員によるスーパービジョンへの依存度を下げ、学生間での相互の学びあいを促進するための方法論を探ってゆきたい。それは、教員からのほたらきかけ以外の、ゼミや研究

室の運営スタイルや、授業の設計といった環境構成の果たす役割が大きいと考える。毎年学生が入れかわるなかで、属人的な関係ではなく、システムとしての学びあいを実現する環境構成を探究してゆきたい。

根拠資料

- ・「動物園学」のプレゼン資料、および外部の動物園人による評価シート
- ・動物行動学の小レポート
- ・生態学、霊長類学の授業後に classroom を通じて寄せられた質問・コメント
- ・卒業論文